

授業日時：令和5年10月17日（火）13：25～14：15  
 授業者：宇野 嘉朗  
 講師：岐阜県立羽島北高等学校 増田 純一 教諭

## 1 単元名 がん患者への理解と共生

## 2 本時の目標

(1) がんと患者の生活の実態を知る。(知識)

(2) がんと共生する社会の在り方について考える。(思考・判断・表現)

## 3 本時の展開

避	学習内容	○学習活動 「・」 予想される生徒の思考	◇教師の指導 等
導入 5分	1. がんの特徴について復習する。	○本時の目標を確認する ○がんについての基礎知識を復習する ①主要死因 ②年齢別罹患率 ③年齢別死亡率	◇本時の講師を紹介する。 ◇資料を提示し、がんは治療しながら生きていく時代であることを復習させる。
	がんとの共生について考え、生活する上で大切な事とは何か考えよう		
展開 ① 11分	2. がんの罹患、治療と日常生活の送り方について考える。	○がん患者の立場になって生活を考える。 《がん患者の事例》 ケース①：10代で罹患【高校生 白血病】 ケース②：50代で罹患【配偶者・子ども 有 大腸がん】 ケース③：親が罹患【生徒各々の保護者 大腸がん】 ※ケース紹介1分 ○<ワークシート記入> 【Teams】 ・決められたがん患者の事例について、以下の観点でワークシート①に記入する。 <b>観点</b> (1) 罹患時の気持ち (2) 治療によって変化して大変そうなこと (3) 生活上変化しないからこそ大変そうなこと ・<生徒の反応予想> ケース① ・(1) なんで自分 誰に伝えよう ・(2) 学校行けない ・(3) 進級できない 友達は先に進んでしまう ケース② ・(1) 死にたくない ・(2) 仕事できない ・(3) 生活費、家族の生活保障はどうなる ケース③ ・(1) 死んでほしくない 自分に何ができる ・(2) 生活はどうなる 自立 ・(3) 自分の生活と治療サポートできるか・・・  ○個人の思考時間 4分 ○ケースごとに意見集約 3分 ○各ケース代表者1名が1分で発表 計3分	※これまでの人生でがん向き合った経験は、生徒それぞれにあると予想されるため、事前に学習内容を伝えるなど、配慮する。 ◇想定ケースを提示し、立場や生活環境、闘病生活について想像させる。 ※担当するケースは事前に決め、グループを作っておく。 ◇がんの治療をしながら生活する上で、主体的な辛さと環境的な辛さの両面があることに気づかせる。また、その際の周囲のサポートの重要性についても理解させる。 ◇ワークシートは【Teams】で共有する。 ◇発表者の思いを生かして講師の講話へ繋げる。
展開 ② 25分	3. がん治療の実態を聞き、自身が罹患した際、生活の参考となる事例について知る。 (一人12分×2名) 交代1分 ※講師①がん経験者(本校教諭) 講師②医療関係者(小関医師)	●講師①から、闘病生活との向き合い方を学ぶ。 ●講師②から、がん患者の事例や医療分野におけるがん患者のサポートの実態を学ぶ。	◇講師の話は一例であり、あくまで自身の考えの幅や選択肢を広げる姿勢が大切であることを伝える。
まとめ 9分	4. 本時のまとめ	○講師の話聞いて感じたことをワークシート②にまとめる。2分  ○代表者による感想の発表 2分 ・がんになった時を想定した生活の備えを考えていきたい。 ・がん患者が生活しやすい社会環境を作っていきたい。 ●生徒のまとめに対して、講師の講評を聞く。5分	◇がん＝死と恐れるだけのものではなく、自身の生活で大切にしたいことと両立し、共生していくことが大切で、その備えや社会づくりが大切だと伝える。  【評価基準】思考・判断・表現 共生する生活について自身の考えをまとめている。